

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	吉番館
所在地	宮城県仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成 22 年 12 月 31 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が、失敗という体験をしないようご自分で出来るところはどこまでなのかをしっかりと見極め、ご自分で行うという喜びを感じていただけるようお手伝いを行っています。個別での買い物への付き添いやご希望される場所への外出の機会を出来るだけ多くもてるようにしています。散歩だけではなく、外での食事の機会を作ることや、仲の良い入居者の方々同士で出かけることで、活気ある生活を送っていただけるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄「富沢駅」から南西部、徒歩15分のところに「やすらぎホーム富沢」(3ユニット)がある。ホーム前から徒歩1分ほどの道路沿いに、本ホームの運営主体であり医療面や重度化・終末期における対応、心理的ケアについても全面サポートする協力医療機関「仙台富沢病院」がある。「言葉にならない思い」を汲み取り、「個性に合わせたケア」を実践することで入居者の「笑顔」を引き出している。「みんなの笑顔が大好きです」という職員の顔も笑顔に満ちていた。災害時に備えて2ヶ月に一度の避難訓練を実施しており、危機管理の意識も高く体制もできている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年1月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 壱番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成している。理念を実施する為、施設としての目標、ユニットとしての目標を作成し理念に少しでも近づけるよう努めている。	基本理念の・生活を共に・家庭的雰囲気・自分らしさを大切に・近所付き合いなどの4本柱を基に、その実践のためのホーム目標、ユニット目標を毎年みんなで話し合って掲げている。各自のケアを振り返る機会もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、町内会での行事に参加させていただいている中で地域の方と交流をしている。また、散歩などの外出の際に気軽にあいさつを行う関係性を作ることが出来ている。	町内会に加入し町内清掃や秋祭りに参加したり、ホームのお便りを回覧している。ホーム主催の夏祭りでは町内会のテントを借り、設置してもらうなどの協力もある。保育園からの夏祭りや焼き芋大会への招待もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	児童館での行事の際に声を掛けていただいている。今までの交流とは別の交流が増えることにより、グループホームとはどのような施設であるのか理解していただけているようである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の方々、民生委員、地域包括支援センターの方々に参加いただき運営推進会議を2か月に1回開いている。グループホームの状況報告等を行い、ご意見等を頂いている。	運営推進会議の開催は全家族に周知し、参加を呼び掛けている。会議は①グループホーム②町内会③地域包括支援センターの順に報告や提言がされている。勤務時間の変更について検討したこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点などあるときは確認させていただいている。また相談にも乗っていただいている。市町村が開催する研修会にも積極的に参加させていただいている。	市のケアプランに関する研修会への参加や担当課への入居者に関する相談などしている。地域包括支援センターが行なった高齢者を見守る組織作りに参加したり、運営に関して相談するなどの協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員は身体拘束は行ってはいけないことという認識を行っている。そのうえで委員会のメンバーを中心に勉強会を行い、なぜ身体拘束を行ってはいけないのか、どのような行為が身体拘束に当たるのか等理解を深めている。	施錠の常態化はない。入居者が「外へ行きたい」「～したい」などの行動や思いを止めることが「拘束」となり、入居者の真の気持ちを閉じ込めてしまう弊害について職員は良く理解し、一人ひとりにあった対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会のメンバーが研修会に参加し、学んできたことを伝達講習を行っている。又、アンケート等を職員に対して行う事でスタッフの意識の調査、介助内容が虐待に当たらないか検証を行う等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成担当者や、管理者は理解しており必要な方に対してはお勧めしたり、ご相談に乗るようにしているが、スタッフ全体は理解するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はその都度ご説明しご不明の点などがある場合はその都度問い合わせただけようお声掛けしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員はご家族から出てきた意見に対しては早急に反映させている。利用者の意見としては訪問介護員の方に昨年度より来ていただいているためその際に利用者の方々から出た要望などはその都度職員におろしていただいている	家族の来訪時に要望を聞いている。個別にお便り(生活の様子、健康状態、外出状況、来月の予定)を書き送り、介護計画の作成時に話し合うなど意見、要望を表す機会は多い。内容は入居者に関する要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や主任者会議にて職員の意見を聴く機会を設けている。会議以外でも職員とのコミュニケーションをとるようにし、現場に活かせるようにしている。	職員は委員会やユニット会議、全体会議で発言することができ、それを受けて主任会議がもたれ検討する仕組みができています。緊急対応の実務研修の開催やユニット交流や行事合同開催など反映された例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間などは臨機応変に働きやすいように相談に応じている。年1回自己評価を行い、それをもとに面談しその後1年の間に行うべきことをしっかり行っているかどうか見極め評価している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じて研修会などに参加する機会を設けて職員全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会に参加することで他の事業所の職員と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された方については環境の変化をなるべく最小限にとどめるよう配慮しつつ、ご本人様が困っている事などを把握し、不安を和らげるような対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が一番希望している事や、あるいは利用するに当たり不安なことはないかなど、出来るだけ聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様が今、その時何を必要としているのかを見極め、ご家族様にも確認を取りながら、暫定プランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も一方的に提供するのではなく、入居者の方々と職員と共に行う事を念頭に置きながら関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際やお電話や「一か月の様子」などを通して入居者の方々の様子を伝えながら共に支援していると思って頂けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの関係性が途絶えないようにどなたにも面会に来ていただけるように働きかけている。又、面会に来ていただきやすいような雰囲気作りを行っている。	入居者が慣習としていた家事などの行動や新聞購読、飲料の宅配などを継続して支援している。「出掛けてもホームに帰りたがる」という家族の声もあり、ホームは入居者にとって馴染んだ居場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の関係性を見極めながら、必要に応じて介入するようにしている。孤立したり、疎外感を感じることなく良い関係が出来るよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談に乗らせていただく事を必ず説明している。入院後体調が回復しグループホームへの入居が可能になった場合などはその都度対応させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行う際に本人様のご希望や、要望などもふくめてアセスメントを行っている。細かい言動や、表情などから本当の気持ちを察するようにしている。	一人ひとりに合った対応をするために家族から聴いたり、入居者の言動から思いや意向を汲み取り、観劇や映画鑑賞をするなど対応している。新入居者については、職員との信頼関係を築き、他入居者と繋げ慣れってもらうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から聴取する事はもちろん行い、その他に日常の会話の中で新たな情報があつた場合はその都度更新するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時や実態調査時に、生活歴やなじみの暮らし方や経過をご家族に確認している。入居後はユニット会議の際などで個別検討を行い情報の共有やできることやできないことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファの祭に職員からの意見を取り入れている。又、ケアプランの説明時ご家族様のご意見も確認しケアプランに反映している。	日々の支援経過を評価し、職員の意見や医師、看護師の指示・見解を加えて3ヶ月に一度、介護計画を策定する。入居者・家族の要望(マッサージ)を取り入れたり、退院後のケアを適正に行なうための現況把握をした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には細かい様子を記入しており、職員間で情報の共有を行えるようにしている。又、申し送りのときでも多少変化など見られるときはその場で話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の業務にとらわれることなく、その日その時にご本人様の希望に添えるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館や保育園などの交流や、体操教室など入居者の方々が希望されたものに参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一番はご本人様や、ご家族様のご希望される医療機関をそのまま利用するようにしている。かかりつけ医などがいない場合は協力医療機関を紹介するようにしている。	受診は定期、変化時ともに遠距離を除いて職員が同行する。結果は「受診報告書」に医師の指示や薬、検査などについて詳細を記録して職員間で情報を共有する。内容に変化があれば家族にも報告する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師や、協力医療機関の看護師に疑問に思ったことや、ちょっとした変化など見られた場合は報告相談するようにして、必要に応じて受診につなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合でも、ご家族様や入院先の医療機関とこまめに連絡を取るようにし状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様が重度化した場合や、終末期に対しての説明は入居時の行っている。又、ご本人様の状態が悪化した場合でもこまめに連絡を取り状況の説明やグループホームとして何が可能であるのかを説明し出来るだけご希望に添えるよう支援している。	入居時に「重度化及び看取りの指針」(文書)を示してホームで対応できることについて説明し、同意書にて意思の確認を行なっている。本部である医療法人は具体的事例や支援の内容について、職員研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や応急処置に対して、看護師よりその都度指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回のペースで避難訓練を行うようにしている。又、今後は消防設備の使い方の勉強会なども行う予定である。	年に2回は消防署立会いによる訓練(内1回は夜間想定)を行ない、地域防災組織から避難誘導の協力を得た。2ヶ月毎の自主訓練では器具の取り扱いや避難時間の短縮など、課題意識をもって取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際には言葉遣いや態度に注意している。出来るだけ同姓介助を行うようにしている。又、トイレの声掛けなどは他の方に気づかれないように誘導するようにしている。	人生の先輩として接し、羞恥心に配慮した排泄誘導や傷付けない対応ができていますか自己点検を行なっている。漬物の作り方を教えてもらったり、したいことを支援するなど一人ひとりの対応を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々の話を傾聴し、意思や思いを引き出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々の生活のペースの把握に努め一人一人のペースに合わせて生活していただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一方的にセッティングするのではなく、ご本人様の希望を取り入れ更衣していただいている。整容に必要なものをスタッフ付き添いにて気軽に行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理など出来ることと出来ないことを見極めて参加していただいている。味付けの際は入居者の方々に希望をとるなどしている。食べたいもの聴取してメニューに反映している。	入居者の好みや体調を考えて職員が献立を作る。一緒にチラシで食材を選び買い物に行くことで食欲を誘う。食事の準備・後片付けも一緒に行っている。丑の日や雛祭などの季節食・行事食や出前も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェック表をつけ不足しているようであれば補食や好みの飲み物の提供などを行っている。減少傾向であれば、医師や歯科医に似相談を行い原因の究明に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	忘れてしまっているようであれば、職員から声掛け、セッティングを行うようにしている。自力で行うことが困難な方に関してはスタッフ介助し、清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、トイレでなるべく排泄していただけるよう誘導を行っている。拒否があった場合でも時間を少しずらして声掛けを行うなどの工夫をしている。	「オムツはできるだけしない」という考えが浸透しており、こまめな観察と適切な誘導を心がけ、実践している。現在オムツ使用者はなく、パットも外す方向でいる。それらが成果の表れとみることができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や散歩など運動の機会を設ける等して、自然に排便を促せるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に合わせて入浴したい時間などを希望を聴取し入浴していただいている。何事も入居者の方々本意で行うようにしている。	希望する時間帯に入浴することができている。職員の勤務時間を調節して午後9時までの夜間入浴も可能にしている。入浴しながら入居者は入浴したい気分を誘う会話や、銭湯利用で気分を変えるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態の観察を行い疲労が見られる場合はその都度休息を促している。夜間帯の巡視も、睡眠を妨げないように行うようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬を処方されるときに出される薬の説明書を把握しており、分からないときはその都度医師や看護師へ確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味や嗜好を聴取する。又、ご家族様からお伺いレクリエーションなどを通じて出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様からの外出の希望を聞き、付き添って出かけることが出来るよう支援している。又、家族様にも協力していただき本人様のなじみのところへ行くことが出来るよう働きかけもやっている。	月毎に外出計画を立て、カラオケや温泉、動物園、モールなどに出掛けている。初詣や花見、七夕などの年中行事は恒例の楽しみとなっている。誕生日には個々の満足を高める希望に沿った個別外出に答えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様とも相談し管理できる方には、ご本人様にも管理していただいている。お金を預かっている方に対しても買い物の際にお会計をお願いするなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば、電話の使用、取次ぎを行っている。耳が遠い方に関してはスタッフが代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に共有スペースの光量や音、温度を確認するようにし過度な刺激にならないように配慮している。	廊下に椅子やソファを置いて、居室以外でも一人になれる空間を確保している。行事のさいに撮影された入居者の笑顔が壁を飾っている。ホールの一角にある畳の小上がりは入居者が集い、茶の間の雰囲気であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席から少し離れたところにソファを設置し、小上がりでも過ごしていただけるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に相談しながら、出来るだけ以前の生活で使用してきた家具など、使い慣れたものを持ち込んでいただいている。	各入居者に合わせて職員が適温に調節している。子供のように可愛がるぬいぐるみや本棚、化粧品、家族の写真など好きな物に囲まれている。転倒予防に足元を整理するなど居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の出来ることや出来ないことを見極め、安全に配慮しながら環境の整備を行いつつ、できることを続けられるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	弐番館
所在地	宮城県仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成 22 年 12 月 31 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が、失敗という体験をしないようご自分で出来るところほどまでなのかをしっかりと見極め、ご自分で行うという事に喜びを感じていただけるよう支援しています。入居者の方々がのびのびと生活していただけるよう、自発的に何かを取り組んでいただけるよう支援しています。本人の希望とご家族の思いを一つでも、一日でも長く継続し生活を送っていただけるよう支援させていただきます。ユニット間の交流も日常的に行われ、ホーム全体で気軽に出入りができる雰囲気作りを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄「富沢駅」から南西部、徒歩15分のところに「やすらぎホーム富沢」(3ユニット)がある。ホーム前から徒歩1分ほどの道路沿いに、本ホームの運営主体であり医療面や重度化・終末期における対応、心理的ケアについても全面サポートする協力医療機関「仙台富沢病院」がある。「言葉にならない思い」を汲み取り、「個性に合わせたケア」を実践することで入居者の「笑顔」を引き出している。「みんなの笑顔が大好きです」という職員も笑顔に満ちていた。災害時に備えて2ヶ月に一度の避難訓練を実施しており、危機管理の意識も高く体制もできている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年1月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 三番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年理念をふまえたうえで、グループホームでの目標を作成し、実施に取り組んでおり達成するために日々努力している。	基本理念の・生活を共に・家庭的雰囲気・自分らしさを大切に・近所付き合いなどの4本柱を基に、その実践のためのホーム目標、ユニット目標を毎年みんなで話し合って掲げている。各自のケアを振り返る機会もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から野菜を頂いたりしており、利用者の方がそれに対しお礼をしていたりしており、日常的に交流は持っている。	町内会に加入し町内清掃や秋祭りに参加したり、ホームのお便りを回覧している。ホーム主催の夏祭りでは町内会のテントを借り、設置してもらうなどの協力もある。保育園からの夏祭りや焼き芋大会への招待もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設から発行している広報誌にて、認知症についての知識を載せ回覧板にて回しており認知症について地域の方々へ広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の事業所や、地域の方と情報交換を行っており、自事業所で行えそうなものや、入居者の方々が利用できそうなものは参加したり取り入れるようにしている。	運営推進会議の開催は全家族に周知し、参加を呼び掛けている。会議は①グループホーム②町内会③地域包括支援センターの順に報告や提言がされている。勤務時間の変更について検討したこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことに関しては積極的に聞くようにし、関わりを持っている。広報誌は発行した際に発送している。	市のケアプランに関する研修会への参加や担当課への入居者に関する相談などしている。地域包括支援センターが行なった高齢者を見守る組織作りに参加したり、運営に関して相談するなどの協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会のメンバーを中心に指導している。その都度スタッフと話をしたり、勉強会を開催し拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠の常態化はない。入居者が「外へ行きたい」「～したい」などの行動や思いを止めることが「拘束」となり、入居者の真の気持ちを閉じ込めてしまう弊害について職員は良く理解し、一人ひとりにあった対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会のメンバーを中心に指導している。メンバーが研修に参加し、その内容を他のスタッフに伝達講習を行っている。虐待しない環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方々に成年後見人制度を使用している方がいるためそれに伴い、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、必ずご家族様に不明な点などないか確認するようにし、一方的に話をする事が無いようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご意見やご要望はすぐに対応し、結果などをご家族様に説明しご納得いただくようにしている。現在このようなご意見や、ご要望がありこのように対応させていただいたという事を見ることが出来るように準備している。	家族の来訪時に要望を聞いている。個別にお便り(生活の様子、健康状態、外出状況、来月の予定)を書き送り、介護計画の作成時に話し合うなど意見、要望を表す機会は多い。内容は入居者に関する要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体での会議や、ユニットの会議の中で職員の意見を聞き入れてそれを反映できるように努めている。	職員は委員会やユニット会議、全体会議で発言することができ、それを受けて主任会議がもたれ検討する仕組みができています。緊急対応の実務研修の開催やユニット交流や行事合同開催など反映された例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回自己評価を行ってもらったうえで管理者と面談を行っている。その中で現在の状況や今後どうしていくべきなのかを話し、その後の仕事が上手くいくようにフォローしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会での勉強会、管理者が主催する勉強会で学ぶ機会を提供している。そのほか法人内外の研修に参加し、受けたスタッフが伝達講習を受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外での研修で交流を持つようになっている。そこで、各職員が情報交換を行い自施設で活かそうとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に話を聞き、何を求めているのかを理解することに重点を置いている。その他、他の入居者の方々と円滑にコミュニケーションが図れるように間に入り、よりよい関係を作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階でご家族様が困っている事や、要望を聴取しており、サービス開始の段階で対応出来るようにしている。開始してからも面会時などに話を聞き、ご家族も安心していただけるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様が何を求めているのかをくみ取り、その都度サービスに活かせるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者様が、どうい暮らしを送りたいのかをという事を考えている。その中で入居者様と良好な関係が続くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様とご本人様の現在の状況を話し合い、どのようにしていけばいいのかを考えて職員、ご家族様とでご本人様を支える関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様のバックグラウンドを元に、話をしたり、ご家族様に聞くことでなじみのものが本人様からなくならないように努めている。	入居者が慣習としていた家事などの行動や新聞購読、飲料の宅配などを継続して支援している。「出掛けてもホームに帰りたがる」という家族の声もあり、ホームは入居者にとって馴染んだ居場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入ってきっかけを作り入居者同士が共に生活していける関係を気づくことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気などで長期入院で退去に至っても施設に戻れる状態まで回復した場合その都度対応できるよう連絡を取るようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し込みや、実態調査の時に本人の思いを把握し、計画作成担当者を中心に各スタッフが本人の思いをその都度くみ取れるように対応している	一人ひとりに合った対応をするために家族から聴いたり、入居者の言動から思いや意向を汲み取り、観劇や映画鑑賞をするなど対応している。新入居者については、職員との信頼関係を築き、他入居者と繋げ慣れてもらうようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様にお話を聞き情報収集し把握するようになっている。把握した情報を提供するサービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やチェック表等を用いて現在の生活リズムや精神状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在のケアプランを元にご本人様の状態や希望、ご家族様の要望を取り入れて、職員同士で話し合い現状に即した介護計画を作成している。	日々の支援経過を評価し、職員の意見や医師、看護師の指示・見解を加えて3ヶ月に一度、介護計画を策定する。入居者・家族の要望(マッサージ)を取り入れたたり、退院後のケアを適正に行なうための現況把握をした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かいことでもケース記録に残すようになっている。何か変わったことがあれば職員同士で話し合い、情報の共有を行っている。そこから、その後の実践やケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療保険におけるデイケアを利用されている方もいる。入居者の方々のご要望に関して対応出来るように体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にあるレストランやスーパーでの買い物や食事の際に自分で選んで買い物を行っている。出来るだけそのような場面を作るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や、ご家族様と相談しご本人様が信頼している場所へご家族様と協力し受診介助等を行っている。また、協力医療機関以外をかかりつけ医になっている場合は、受診の都度状況報告するようにしている。	受診は定期、変化時ともに遠距離を除いて職員が同行する。結果は「受診報告書」に医師の指示や薬、検査などについて詳細を記録して職員間で情報を共有する。内容に変化があれば家族にも報告する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでもお互いに話ができる関係が出来ている。スタッフのみで判断するのではなく細かいことでも報告し必要であれば受診につなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてからでもご家族様や病院とまめに連絡を取り状況を確認している。また、入院後1カ月くらいで、医師、ご家族様、管理者でムネテラを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する事や、ターミナルケアに関する同意書の説明を行っている。それ以外でも入居者の方々の状態に合わせてご家族様に説明を行い、方向性を確認している。	入居時に「重度化及び看取りの指針」(文書)を示してホームで対応できることについて説明し、同意書にて意思の確認を行なっている。本部である医療法人は具体的事例や支援の内容について、職員研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャートや連絡網を用いて対応出来るようにしている。応急手当に対しても看護師にも指導していただきながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回地域の方を含めた避難訓練を行っている。それ以外にも2カ月に1回避難訓練を行っている。スプリンクラーの設置も終了している。	年に2回は消防署立会いによる訓練(内1回は夜間想定)を行ない、地域防災組織から避難誘導の協力を得た。2ヶ月毎の自主訓練では器具の取り扱いや避難時間の短縮など、課題意識をもって取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ1人1人が入居者の方々の事を少しでも多く理解し、尊敬しておりプライバシーやその人の気持ち、プライドを損ねるような声掛けや対応は行わないようにしている。記録類は入居者の方の目の触れないところに保管している。	人生の先輩として接し、羞恥心に配慮した排泄誘導や傷付けない対応ができているか自己点検を行なっている。漬物の作り方を教えてもらったり、したいことを支援するなど一人ひとりの対応を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々からの希望を優先し、うまくコミュニケーションが出来ないときは聞き方や話し方を変えて、その人が上手く気持ちを伝えられるように工夫している。言葉での伝達が上手く出来ない方に対しては行動、表情を見てケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々優先を心がけ、スタッフの仕事は後回しにしてもよいから、その人一人ひとりのペースを大切に、入居者の方々がやりたいことを優先してケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪はご本人様の希望があった時に美容室や理容室へ外出するようにしている。行事や外出の時はその方がどのような服を好むのかを理解しおしゃれの手助け、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や入居者の方々と協力しながら食事の準備を行っている。出来るだけおいしく食べていただけるように好みの味付けに出来るものに関してはお好みのものに出るようにしている。職員も一緒に食事するようにし、談話をしながら和やかに食事をしていただけるように支援している。	入居者の好みや体調を考えて職員が献立を作る。一緒にチラシで食材を選び買い物に行くことで食欲を誘う。食事の準備・後片付けも一緒に行なっている。丑の日や雛祭などの季節食・行事食や出前も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は一人ひとりチェック表を作成し記入し必要量摂取していただけるよう支援している。水分摂取量や食事摂取量が少ない方に対しては好まれる飲み物や、捕食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に残差物が多く残っている方も多いため毎食後口腔ケアを行っている。自立されている方に対してもお声掛けするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、チェック表を作成し排泄チェックを行っている。自らトイレに行く事が難しい方に対しては排泄パターンを確認しながら誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄を続けていけるよう援助している。	「オムツはできるだけしない」という考えが浸透しており、こまめな観察と適切な誘導を心がけ、実践している。現在オムツ使用者はなく、パットも外す方向でいる。それらが成果の表れとみることができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、食事は野菜や繊維質が多く含まれているものをなるべく提供するようしている。また水分や乳製品の提供も行い、出来るだけ自然に排便していたけよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の方々がご希望される時間帯に入浴できるように支援している。入浴拒否がある方に対してはスタッフ同士で話し合い、時間帯を変えてみたり、スタッフを交代して声掛けするなど工夫して行っている。	希望する時間帯に入浴することができている。職員の勤務時間を調節して午後9時までの夜間入浴も可能にしている。入浴したがない入居者は入浴したい気分を誘う会話や、銭湯利用で気分を変えるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体を休めたいときに入居者の方々が休みたい場所で休んでいただけるよう好きな場所で休んで頂いている。夜間は入居者の方々の休みたい時間に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方々一人ひとりの薬を把握し、新しく処方された薬がある場合は必ず申し送りを行うようにし、受診報告書や薬の説明書を確認するようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分から行い始めた事や、出来ることに関しては継続して行っていただけるよう支援している。行いたい事や、今まで行っていたがだんだん出来なくなってきている事に関してはスタッフが介入していきながら継続して行っていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方に対しては希望されるところにいけるように支援している。その際必要時にご家族様のご協力を得ている。職員で対応できる場合はご本人様が希望される場所へ出かける事が出来るよう支援している。	月毎に外出計画を立て、カラオケや温泉、動物園、モールなどに出掛けている。初詣や花見、七夕などの年中行事は恒例の楽しみとなっている。誕生日には個々の満足を高める希望に沿った個別外出に応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理することで安心される方もいるためご家族にも協力いただき自己管理していただいている。また、金庫にあずかることで安心される方もおられるためその方に合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときには電話を掛ける支援を行ったり、耳が遠い方に関しては代わりに要件を伝えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に自分が生活しているという生活感が出るように写真を貼ったり、やさしい光を使用し暖かな空間を作るようにしている。入居者の方々に合わせた温度調節を行っている。	廊下に椅子やソファを置いて、居室以外でも一人になれる空間を確保している。行事のさいに撮影された入居者の笑顔が壁を飾っている。ホールの一角にある畳の小上がりは入居者が集い、茶の間の雰囲気であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳席は畳を好まれる方に、ソファを好まれる方はソファ席などに座られるなどいろいろな空間を準備している。その方の好みや状態に合わせて各々くつろいでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れたものを持ちこんでいただき、他者の居室にはない居心地の良い空間を作っている。	各入居者に合わせて職員が適温に調節している。子供のように可愛がるぬいぐるみや本棚、化粧品、家族の写真など好きな物に囲まれている。転倒予防に足元を整理するなど居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部署にはわかりやすいように表示しており、行きたい時にすぐ行動できるようにしている。危険なことなどがあると時はどのようにすれば安全な空間になるのかを考え改善するようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	参番館
所在地	宮城県仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成 22 年 12 月 31 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の体調に合わせて出来ることは一緒に行っていただきできる体験をたくさんしていただけるようにお手伝いしています。入居者の方々は自ら色々な話をされたり、家事やレクへ参加され笑顔多く過ごされ、暖かい雰囲気だと思います。壁の創作活動なども季節感が伝わるようなものを行っています。作ったものを見てお互いにいいわねと褒め合いながら季節感も感じていただいています。入居者の方々がやりたい事を行いながら、大笑いしながら毎日を過ごしています。入居者の方々に色々な事を教えて頂きながら、お互いを大切にし、お互いを思いやり、お互いを敬いながら毎日過ごしています。とても良い関係が築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄「富沢駅」から南西部、徒歩15分のところに「やすらぎホーム富沢」(3ユニット)がある。ホーム前から徒歩1分ほどの道路沿いに、本ホームの運営主体であり医療面や重度化・終末期における対応、心理的ケアについても全面サポートする協力医療機関「仙台富沢病院」がある。「言葉にならない思い」を汲み取り、「個性に合わせたケア」を実践することで入居者の「笑顔」を引き出している。「みんなの笑顔が大好きです」という職員の顔も笑顔に満ちていた。災害時に備えて2ヶ月に一度の避難訓練を実施しており、危機管理の意識も高く体制もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 参番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作成し、1人1人スタッフの目に付くように掲げている。又会議の際に理念について話し合いを行っている。	基本理念の・生活を共に・家庭的雰囲気・自分らしさを大切に・近所付き合いなどの4本柱を基に、その実践のためのホーム目標、ユニット目標を毎年みんなで話し合っけて掲げている。各自のケアを振り返る機会もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外へ出たときには積極的に挨拶を行うようにしている。又、地域の清掃活動にも参加し交流を深めている。	町内会に加入し町内清掃や秋祭りに参加したり、ホームのお便りを回覧している。ホーム主催の夏祭りでは町内会のテントを借り、設置してもらうなどの協力もある。保育園からの夏祭りや焼き芋大会への招待もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などに積極的に参加していただけるように地域の皆さまに声を掛け、交流の場を作るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、グループホームでの活動の内容の報告を行い、参加していただいている方々からご意見をいただくようにしている。	運営推進会議の開催は全家族に周知し、参加を呼び掛けている。会議は①グループホーム②町内会③地域包括支援センターの順に報告や提言がされている。勤務時間の変更について検討したこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームで発行している機関誌を送っている。また、市や区にわからないことや、疑問に思ったことなど相談するようにしている	市のケアプランに関する研修会への参加や担当課への入居者に関する相談などしている。地域包括支援センターが行なった高齢者を見守る組織作りに参加したり、運営に関して相談するなどの協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。どのような行為が身体拘束に当たるのかを勉強会を行い、身体拘束につながらないようにしている。	施錠の常態化はない。入居者が「外へ行きたい」「～したい」などの行動や思いを止めることが「拘束」となり、入居者の真の気持ちを閉じ込めてしまう弊害について職員は良く理解し、一人ひとりにあった対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても勉強会を開き、どのような行為が虐待に当たるのか、また高齢者虐待の実態等を学びケアにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学ぶようにしている。また必要な方に関しては情報を提供し支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約ないようが変更する場合は1か月前までには報告、説明するようにしている。不明な点などにはその都度ご説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などは設けてはいない為、面会時に積極的に話しかけるようにし、ご意見やご要望などを聞くようにしている。また意見箱を設置している。	家族の来訪時に要望を聞いている。個別にお便り(生活の様子、健康状態、外出状況、来月の予定)を書き送り、介護計画の作成時に話し合うなど意見、要望を表す機会は多い。内容は入居者に関する要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会などで出た職員の要望を出来るだけ反映するようにしている。また、普段より職員が要望などを言いやすいような雰囲気を作るようにしている。	職員は委員会やユニット会議、全体会議で発言することができ、それを受けて主任会議がもたれ検討する仕組みができています。緊急対応の実務研修の開催やユニット交流や行事合同開催など反映された例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回は職員の評価を行い、一人ひとりの努力などを反映するようにしている。また、労働時間なども職員の希望にそえるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修に参加できるよう機会を作っている。また内部での研修も出来るだけ行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで出会った方々と意見交換を行うようにしている。また同一法人で新たにグループホームが加わったため交流を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人様と話をする機会を多くするようにしている。その中で、本人様の要望や不安に思っている事を聞きとるようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前から何に困ってらっしゃるのか、どういう生活を送っていただきたいのかなど聞くようにし、出来るだけ安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族がその時何を必要とされているのかを見極め、ご意向にそえるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に対応し提供するのではなく、入居者の方々と職員が助け合いながら家事活動や、日々の生活で必要なことを共にしながら関係を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも行事への参加や、受診介助を必要に応じて行っていただくことで、入居者の方々と職員とともにご家族様にも支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ今まで生活してきた中で築かれてきたなじみの人との関係を保てるように、ご家族様にもご説明し、面会などに来ていただけるように働きかけている。	入居者が慣習としていた家事などの行動や新聞購読、飲料の宅配などを継続して支援している。「出掛けてもホームに帰りたがる」という家族の声もあり、ホームは入居者にとって馴染んだ居場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者の方々と同士の近くで座っていただくようにしたり、外出にいていただくようにしている。また、一人で過ごされる方に対しても、職員が介入し孤立しないように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した後も、その都度ご相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々と関わりを持つ中で、本人様の望むことを聞いたり、感じ取るようにしている。ご家族様にも確認するようにしている。	一人ひとりに合った対応をするために家族から聴いたり、入居者の言動から思いや意向を汲み取り、観劇や映画鑑賞をするなど対応している。新入居者については、職員との信頼関係を築き、他入居者と繋げ慣れてもらうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との関わりの中で確認したり、ご家族様にお話しを聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方がどこまでが来てどこまで出来ないのか、どの程度お手伝いすれば可能なのか見極めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が望まれている事を反映できるように、ご本人様や、ご家族様に要望などを確認しながら作成している。また、各職員にモニタリングやアセスメントを行うことで職員の意見も反映している。	日々の支援経過を評価し、職員の意見や医師、看護師の指示・見解を加えて3ヶ月に一度、介護計画を策定する。入居者・家族の要望(マッサージ)を取り入れたり、退院後のケアを適正に行なうための現況把握をした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を細かくケース記録に残すようにし、情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方々がご希望される事に対して対応出来るように体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域で行われている事など出来るだけ情報収集し、地域資源の活用を心がけ、個々の利用者様に合った参加の方法を考え、支援を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今後の受診をどのように行うか今までのかかりつけ医を利用される方に関しても、現状を把握していただけるように情報提供を行うようにしている。	受診は定期、変化時ともに遠距離を除いて職員が同行する。結果は「受診報告書」に医師の指示や薬、検査などについて詳細を記録して職員間で情報を共有する。内容に変化があれば家族にも報告する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師や協力機関の看護師に気づいたことなどをその都度相談し、必要があれば病院受診につなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後出来るだけ早めに主治医などにご相談するようにしている。また、ご家族とも連絡を取るようし状況など確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に出来るだけ現状を細かく報告し、ご家族様がどのように考えているか確認するようにしている。その際に、グループホームで出来ることを説明するようにしている。	入居時に「重度化及び看取りの指針」(文書)を示してホームで対応できることについて説明し、同意書にて意思の確認を行なっている。本部である医療法人は具体的事例や支援の内容について、職員研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒などの事故発生時のシュミレーションを行い応急手当等の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が入居者の方々の安全を守る術を身につけるために避難訓練を2カ月に1回行っている。またマニュアルを作成しいつでも見れるようにしている。	年に2回は消防署立会いによる訓練(内1回は夜間想定)を行ない、地域防災組織から避難誘導の協力を得た。2ヶ月毎の自主訓練では器具の取り扱いや避難時間の短縮など、課題意識をもって取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方々は人生の先輩であることを認識し声掛けを行うようにしている。また、介助に関する声掛けの場合も周りの方には気づかれないように気をつけるようにしている。	人生の先輩として接し、羞恥心に配慮した排泄誘導や傷付けない対応ができていますか自己点検を行なっている。漬物の作り方を教えてもらったり、したいことを支援するなど一人ひとりの対応を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせて、ご自分の要望を話される方に対してはご自分の言葉で表わして頂けお声掛けしている。またご自分の希望をなかなか話すことが出来ない方に関しては選択肢などを示し選んで頂いたり、反応を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを優先するのではなく、それまでの生活スタイルを大切に、ご本人の希望にそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは出来るだけご自分で選んで頂くように支援している。ご希望に合わせて、美容室や床屋にいけるよう体制を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は、出来るだけその日の状態に合わせて職員と一緒に行っていただくようにしている。職員と入居者の方々は一緒に食事をとるようにしている。	入居者の好みや体調を考えて職員が献立を作る。一緒にチラシで食材を選び買い物に行くことで食欲を誘う。食事の準備・後片付けも一緒に行なっている。丑の日や雛祭などの季節食・行事食や出前も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適量の水分量などを摂取して頂けるよう、チェック表などを利用し、職員同士声をかけながら必要量確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行う方に関しては、お声掛けを行っている。ご自分で行う事が難しい方に関しては介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行くことが難しい方に関しては、排泄パターンを把握したうえで一人ひとりに合わせてトイレ誘導を行っている。出来るだけトイレでの排泄を続けられるよう支援している。	「オムツはできるだけしない」という考えが浸透しており、こまめな観察と適切な誘導を心がけ、実践している。現在オムツ使用者はなく、パットも外す方向でいる。それらが成果の表れとみることができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方に対しては、出来るだけ薬に頼らず排便していただけるよう乳製品の提供や、体を動かす機会を増やすことなどで自然に排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけご本人が望まれるときに入浴していただけるよう支援している。入浴を嫌がる方に対しても、時間を置いてからの声掛けや、声掛けの工夫等を行い出来るだけ入浴していただけるよう支援している。	希望する時間帯に入浴することができている。職員の勤務時間を調節して午後9時までの夜間入浴も可能にしている。入浴しながら入居者は入浴したい気分を誘う会話や、銭湯利用で気分を変えるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息されるときはご本人様が希望される場所で休んでいただいている(小上がり、ソファ、居室など)しかし、夜間の睡眠に影響が出ないようお声掛けするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書をケース記録に挟んでおりいつでも見れるようにしている。また、注意事項や変更したことなどは受診報告書に記録されているため出勤した時は必ず確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が好まれる作業や、レクなどを把握しており行いたいときに行っていただけるように支援している。本人様が得意とされている作業は失敗しないよう見守りつつ、行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方々の希望に合わせて外出などを支援している。誕生日などに個別での外出を行い、希望されるところに外出するようにしている。	月毎に外出計画を立て、カラオケや温泉、動物園、モールなどに出掛けている。初詣や花見、七夕などの年中行事は恒例の楽しみとなっている。誕生日には個々の満足を高める希望に沿った個別外出に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金額は小さいがご自分で管理されている方もおられる。希望があればご自分で管理していただくようにしている。ご自分で管理していなくても支払いはご本人に渡して行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	回数は多くないが、ご希望があればお電話できるように支援している。また、手紙なども送られてきた方に対してお返事を職員と一緒に出しに行くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の装飾は季節感のあるものを入居者の方々と一緒に作成し飾るようにしている。気軽に共有スペースを使っていただけるように小上がりに座布団を置くようにしている。	廊下に椅子やソファを置いて、居室以外でも一人になれる空間を確保している。行事のさいに撮影された入居者の笑顔が壁を飾っている。ホールの一角にある畳の小上がりは入居者が集い、茶の間の雰囲気であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所に椅子を置くようにし、仲の良い方と過ごしたり、一人で過ごしたりと自分たちが思うところで過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用しているものを出来る限り持ってきていただくようにしている。備え付けのものに関しては出来るだけわかりやすいように、ご本人様やご家族様と相談しながら設置している。	各入居者に合わせて職員が適温に調節している。子供のように可愛がるぬいぐるみや本棚、化粧品、家族の写真など好きな物に囲まれている。転倒予防に足元を整理するなど居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レク用品や、掃除用品等置いてあるところが分かるように紙に書きはるようになっている。		